

《昨年度特別審査員 池田敏美氏（ヴァイオリニスト）の手記より：承前》

♪定年後、最上にやってきて、34年間勤めたオーケストラ（新星日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団）という組織から離れ、独奏することになりました。演奏の場は、それまでのコンサートホール中心から、デイケア、グループホーム、学校、病院、お寺の本堂等々実に多彩です。

ある時、多発性硬化症の為、目玉しか動かなくなった女性と同行の医師、介護者10人のためのコンサートをそば屋さんで行ったことがありました。私の音をじっと見つめ、やがて、目の表情が微妙に和らいでいくように見えたのは、感動でした。まるで私に「あなたはもっとやれることが、いっぱいあるんだよ」と、無言の励まし、メッセージを送ってくれている様に思えてなりませんでした。

父の強い反対の盾となって、いつも私を応援してくれた母が、亡くなる2ヶ月前、私の演奏会の後「お前は、ずいぶん苦労したけれど、それが全部今の音になっているんだね」と言ってくれた一言が、音大時代の友の問いに対する答えの全てかもしれません。（終わり）



↑分水嶺となっている自宅前の小川、冬季は一面の銀世界に

実行委員紹介



『笠原順美さん』

◎音楽センターアコーディオン科東部教室所属

♭ ♭ # ♭ ♭ # ♭ ♭ # ♭

名前の読み方は「スナミ」、父親は従順で美しく育つようにスナオミとしたそうですが母親がスナミと決めたそうです。性格は、自称前向き、物事にはじっくり取り組み、人には優しく、自分にはあまい、ちょっぴりおちょこちょいの傾向あります。情報収集能力にすぐれた方で実行委員会の機関紙部はぴったりの部署です。唯一の美しい欠点は、しゃべり始めると止まらない、次から次と新しい情報が出てくることです。趣味も多方面にわたり、スポーツは何でもござれ、山岳会に入っていて、北アルプスが好きで槍ヶ岳には10回以上登っている山娘だったそうです。今はスキーにハイキングでがまんしています。合唱団に30年も籍を置いて歌っています。大好きなカッチー二のアベマリアを弾きたいので自分に弾ける譜面を探しているとのこと。どなたか譜面をお持ちの方ありませんか。

写真は、昨年度の関東アコーディオン演奏交流会に出場したときのスナップ。（田中 積：記）